



はまだっこ

蒸し暑さが本格的になってきました。

5月下旬、子どもたちが日常生活を取り戻す中、マスク着用が大変になってきました。暑さと湿度でどうしてもずらしたくなりますし、朝からマスクを着用して歩いてくると、中はじっとりしています。また、2年生の学級だよりも書いてありましたが、マスクをずっとしていることで、子どもたちの表情の変化が捉えにくく、マスクの中の湿気のため熱中症の初期の症状に本人も気づきにくいということが心配されます。

学校では、スポーツ省からの通知も受け、体育の時間はマスクを外してよいと指導をしています。これからの季節、当分の間、登下校時のマスク着用も絶対ではなく、体育の時間同様、マスクをつけた子はつけてくださいと、変更したいと思います。マスクを外している子は、大声を出さない、友だちとの距離が保てない時は会話を控える、くしゃみが出そうなときは肘の内側あたりに口を当ててくしゃみをする・友だちの方を向いてくしゃみをすることは絶対にしない(マスクをしていても同じですが)、学校へ到着した時・家に帰った時はまず手洗いをする、このことを優先して実践して欲しいと思います。また、昇降口でマスクをつけてから校舎内に入るようにしてください。今後も、気候の変化なども含め、対応が変化していくと思われまます。その時は、学校内で統一した指導ができるように、学校だより等を使って呼び掛けていきます。

【追伸】文部科学省や政府から出している感染予防マニュアルで、手洗いとセットになって書かれていた「うがい」が、最近公的文書から消えました。主たる理由は、学校の水道場のように区切りのない手洗い場で、うがいをした水を勢いよく吐くと、飛沫感染の恐れがあるからとのようです。うがいをしてはいけなわけではありませんし、インフルエンザ等の感染予防では「うがい」は今でも推奨されています。「必ずしよう」から「やってもいいよ。隣の子に水しぶきがかからないようにしよう。」に変更します。また、歯磨きはうがいも兼ねて、食後必ず行おうという指導は継続します。

ウイルスの次にやってくるもの

・お友達を思いやることって

先週25日(月)に、全学級で道徳の時間をとって、「今考えよう、ウイルスの次にやってくるもの」と「お友達を思いやることって」を、考え合いました。どちらの学習も子どもたちは、真剣に自分事として考えてくれました。高学年の感想を一部紹介します。



こうがくねん かんそう いちぶしょうかい
高学年の感想を一部紹介します。

コロナウイルスがはじまった時は、熱が出て、かぜをひいても、自分からいうのがこわかったけど、今日コロナのことを勉強したら、「自分から言った方が早く相手に知らされるから、早く治そう」としてくれる」と、動画で知ったから、自分から言おうと思った。自分が少しでもできることはないか？と思った時、恐怖にみんなが負けないために、うその情報を流さないと言うことを知りました。(後略)

新型コロナウイルスの影響で、日本全体が「恐怖」に飲み込まれていると感じていました。しかし、今日の授業を聞いていると、みんな正しい意見を持っていました。だからメディアは暗くてみんながおびえるニュースだけではなく、もっと明るいニュースを流し、もっと正確な情報を教えて欲しいです。それと、SNSにコメントする人は、その言葉にもっと重みを感じて投稿してほしいと思いました。

(前略) みんなで応援したり励ましたりしたらいいと思います。どんな自分であることが大事かは、人を差別したり、うその話を広めたりしない自分でいたい。人がうその話を広めたりしたら、自然な感じでさりげなく注意すればいいと思います。ずっとお家にいた人もいたかもしれませんが、学校が始まってたくさんの友達に出会えて、私はうれしいです。(後略)

私は今までコロナウイルスにかかるのが一番怖いことだと思っていました。でも今日の授業で、一番怖いのは周りの人から言われる差別が一番怖いなと思いました。なので、これからのコロナウイルスの予防はもちろんですが、笑って励まし合って、団結することが大切だことだとわかりました。

ぼくはコロナウイルスにかかった人のことを、少し悪い目でみていたけど、今回学んで、自分ももしやられたらすごいやだなあと思いました。かかった人はかかりたくてかかるわけではないし、その人のせいじゃないから、もう少し温かい目が大事だと思いました。

子どもたちの感想から、正しく知って正しく恐れること、その恐れがあるからこそみんな感染予防をすることの大切さを、改めて確かめることができたように思います。でも、何が正しいことなのかを見抜くことは、小学生にとってはとても難しいことでもあります。私たち大人が正しいことを見抜く力を備えなければいけないと思いました。

私は今元気です。けどいつでも病気になることはあります。夢さんも初めは元気だったと聞きました。夢さんは病気がたたかかって、苦しいこともたくさんあったと思います。けれどもがんばってがんばって、この学校にもどってきてくれたことをうれしく思います。

私は夢さんが6月1日に来て会ったら声をかけたいです。これから4年間を楽しく学校生活を送ってほしいです。また3年1組の人もちゃんとコミュニティ室に行って、寄り添ったことに「すごいクラス」だと思えました。これからは、私たちも夢さんと仲良くし、楽しい大好きな学校生活にしてみたいです。

夢さんのことは、家が近い子や、昨年度仲良し班で一緒だった子もいて、何人かが知っていたそうです。6年生は自分たちにできることを考え、夢さんのつらさや学校大好きという気持ちに寄り添おうとする子どもたちであったと担任の先生からその姿を聞いてもらいました。先日、そのことが書かれた学級通信を夢さんとご両親にお渡しすると、安心した表情になられたそうです。

そして、本日夢さんは、3年1組の仲間が待つ教室で、初めて、まずは1時間、学校生活を送ることができました。(HPへ掲載の時は、夢さんの名前は〇さんと表記します。)